

富山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会概要
(第22回子ども・子育て会議)

1 開 会 (10時30分から)

(定員数：委員の過半数が出席すること。浅岡委員、福谷委員、橋本委員、八木委員 各委員欠席)

2 こども家庭部長挨拶

3 議 事

(1) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し及び進捗状況について

- ・「富山市子ども・子育て支援事業計画」の中間年の見直し及び進捗状況について、資料1～3に基づき内容を説明
- ・事務局の方針どおり進めることで決定

【主な意見等】

委 員 現場で見ていると、1号認定で入所できるという認定こども園の機能への理解が進んできている。幼保連携型認定こども園の利用形態が周知され、1号認定の利用率が上がってきたのではないかと感じている。1号認定から2号認定に変わる場合もあるので、施設形態の利便性が向上していくことが必要と思っている。

委 員 私立幼稚園の多くが、幼保連携型または幼稚園型の認定こども園に移行している。保育園から移行した園とは異なり1号が多く、2・3号認定は少ないが、最近は1号が集まっておらず、定員の見直しなどしていかないと苦しい状況。保育園に幼保連携型に移行した施設と幼稚園から幼保連携型に移行した施設の実情は違うと感じている。

委 員 3号認定が計画より少ない理由として、育児休暇を延長する人も増えていると説明があったが、第1希望や第2希望の施設に2号で入れなくて、1号で入っているという実情もあるのではないかと感じている。

事 務 局 年度当初は施設に入りやすいが、だんだん年度末が近づくと入りにくくなる実情があるため、2号では入れないので1号で入るといった例もいると思う。実際の数までは把握していない。

委 員 卒園までを見越して、とりあえず1号認定で入り、その後、2号に移行したいという方が一定数いるのかもしれない。

委 員 ファミリー・サポート・センターの依頼会員が減少している要因・背景について、どのように考えているか。

事務局 習い事や学校・学童保育等の送迎利用が多いが、コロナ禍で習い事が中止になったり、学校や学童保育が休業したりして、利用が減少していることが要因と考えている。

委員 子ども会（学童保育）は、コロナ禍で学校が休みでも開いていた。遊び方など配慮しながら、親子さんと一緒に乗り切ってきた感がある。山田地域にも新設され、地域の皆さんに利用いただいている。発達障害のお子さんの利用もあり、子ども会が放課後デイの送迎の待合せ場所になっている例もある。保護者方は発達障害についてよく勉強されており、積極的に子育て支援サービスを使おうという意識が高まっている。

委員 体調不良児対応型病児保育について、か所数が急速に増えているが、どのような体制で受け入れているかが重要である。実際の受け入れ体制は。また増加の理由は。

事務局 体調不良児対応型病児保育は、看護師を配置して対応するもの。私立保育施設に対して市から補助を行い、安心して保護者の方が預けられる環境整備に取り組んでいる。また、医療的ケア児についても、国の補助金を活用して私立保育施設への支援を行っている。市立保育所でも2名を受け入れる予定としており、配慮の必要な方への支援の充実にも努めている。

委員 3号認定の受け皿について、新型コロナウイルス感染症の影響はあったとは思いますが、年度途中の入所が難しい状況がある。若い子育て世帯は（手当等があったとしても）、働かないと経済的に厳しいといった状況もある中で、今後、新型コロナウイルス感染症の影響がなくなった場合には、さらに0、1歳の保育需要が高まることも予想されるため、0～1歳児の受け皿が計画値の通りでよいのか心配である。

事務局 令和3年度の利用実績は量の見込みを下回っているが、現在の利用定員と利用児童数は均衡しており、地域によっては委員ご指摘のとおり3号認定の受け皿が不足しているものと考えている。ただ現状では、確保方策の計画値が利用定員よりも大きな値となっているため、計画は見直さずに今後も整備を進めていきたい。

また、保育士の配置基準（0歳児の場合は3人に1人）を満たす必要があるため、保育士の確保状況によっては年度末になると施設に入りにくいといった状況になる。3号認定の受け皿確保については、就業状況や施設の配置状況など地域性も踏まえながら、市全体の量を見ていきたいと考えている。

(2) 幼保連携型認定こども園等の認可申請及び利用定員について

- ・令和5年度認定こども園認可申請施設等について、資料4に基づき内容を説明
- ・事務局の方針どおり進めることで決定。ただし、(仮称)ひらきこども園については、現時点において職員配置等について具体的に確認できないため、認可申請書が提出された時点で再度審議を行う。

【主な意見等】

委員 新設の(仮称)ひらき保育園について、開園はいつか。

事務局 令和5年8月を予定している。

委員 年度途中の開園になるが、人材の確保はできているのか。

事務局 元々4月開所予定であったため、人材確保については4月を目標として進めていると聞いている。

委員 新卒の方については4月採用と思うが、潜在的保育士のような人材の場合は、開園時期にあわせて採用月を調整していると思われる。年度途中の開園の場合、最初から定員まで入らないと思う(自園の場合は4割ほどであった)ので、職員は徐々に増やしていくことで対応できた。この法人が、どこまで人材を確保しているかはわからないが、もう1つ認定こども園を運営しているので、余剰人員として、その施設で経験を積んでいくのだと思う。

委員 園長は専任か。また職員配置の詳細は確認できるか。

事務局 現時点では認可申請書が未提出の状況であるため、職員配置の詳細は把握できていない。来年度途中の開園であり、今後、認可申請書の内容を確認していくことになる。

委員 職員配置の詳細が確認できないのであれば、現時点で審議することは難しいのではないか。

事務局 来年度、認可申請書が提出された時点で、再度審議をお願いしたい。

4 報告事項

・市の子育て支援施策に関する報告事項について、資料5に基づき内容を説明

【主な意見等】

委員 市内教育・保育施設における不適切保育の件については、人材を養成する立場として重く受け止めている。市が行った特別監査の内容については、今後公表されるのか。起きてしまった背景があると思うので、そういったところへの支援をお願いしたい。

事務局 特別監査の内容については現在精査中であり、今年度内には（一般に）公表する予定である。

委員 認定こども園全体の問題と思っている。保護者や地域住民の受け止めは、どの施設も同じではないかといったものである。認定こども園全体の信頼を失ったという重大な危機感を感じている。園自体にもがんばってほしいと思っているし、他の認定こども園も見える化を進めるとともに、認定こども園としての役割を高め、保護者の信頼を得られるように努力していきたいと考えている。

委員 この施設は、現在も開園しているのか。

事務局 開園している。

委員 市のガイドラインがあるということだが、それに沿ってできなかったということは間違いない。少子化が進む中で若い方が子育てに不安を感じないように、市とともに認定こども園の協議会にも力を入れて取り組んでいただきたい。

委員 出産・子育て応援事業について、国・県・市の支出割合は。現金での支給か。

事務局 負担割合については、国が2/3。残り県と市が1/6ずつを負担する。今年度の補正予算で、現金による給付を行う予定である。

委員 子育て世帯応援臨時給付金支給事業について、児童養護施設や里親の方にも支給されているのか。

事務局 児童養護施設や里親の方にも児童手当の口座に支給している。

（12時00分終了）